

西小倉地域小中一貫校開校準備委員会 次第

日 時 : 令和6年12月16日(月) 18時
場 所 : 西小倉小学校ランチルーム

教育目標

互いに尊重し合い 主体的に行動し 未来を切り拓く児童生徒の育成
～学び つながり しなやかに～

目指す児童生徒像

自ら学び 考える人 他者と対話し つながる人 しなやかに 行動する人
～We are the Leaders～

1 開会・挨拶

2 報告事項

- ・学校名、宇治西小倉学園（小中一貫校名）について
- ・西小倉地域小中学校の教職員合同研修会（R6.11/29）について

3 専門部会の取組状況について

- ・制服部会
- ・校歌・校章部会
- ・こども見守り部会

4 専門部会毎の協議

（専門部会毎に分かれる）

5 その他

- ・次回日程について

6 閉会

【資料】

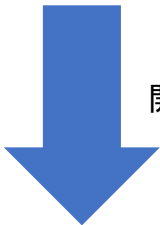
- 資料① 学校名、宇治西小倉学園（小中一貫校名）について
資料② 専門部会の取組状況について

学校名、宇治西小倉学園（小中一貫校名）について

小学校名 : （仮称）にしおぐら小学校

中学校名 : 西小倉中学校

愛称（小中一貫校名）: 宇治西小倉学園



開校に向けて「愛称」などの活用や周知

その一つとしての提案

①本会の名称について

現在 : 西小倉地域小中一貫校開校準備委員会



今後 : 宇治西小倉学園開校準備委員会

第7条 この要項に定めるもののほか、委員会及び専門部会の運営に関し必要な事項は、委員会の了承を経て委員長が定める。

②広報誌について

現在 : 西小倉地域小中一貫校だより巨椋野



今後 : 宇治西小倉学園だより巨椋野

専門部会の取組状況について【制服部会】

1 前回部会（令和6年11月20日）の概要

- (1) 体制の確認
- (2) 協議事項「制服について」

【協議の視点等】

- ・制服は必要なのか、必要でないのか
- ・学校が実施した「セル服ウィーク」の振り返り
- ・制服のメリット・デメリット
- ・制服の採用について

《意見交流での主な意見》

○制服が必要なのかそうでないのか。保護者としての思いなどを話してほしい。

- ・新しい学校ができるので、保護者として制服は必要なかなと思っている。
- ・制服が好きという子が多い。制服でも決められたルールの中でコーディネートもできるし、周りの保護者からは、中学生になった証を見るのも楽しいといった声もある。
- ・制服はあった方がよい。楽であり経済的にもよい。制服も青春の一つであると思っている。
- ・小学6年生までは制服はなしで、中学生からあるほうがいいのか。宇治黄檗学園と同じかたちでいいのではないか。
- ・服装が違ふことで調和をとることが難しいということはないと思う。なぜ、小学生は私服で、中学生は制服なのか、この疑問は消えない。制服を着ることでマナーが育つ、規律が向上するという根拠は乏しいのではないか。7年生から制服を着るとなると、一つの校舎内で制服と私服で分断されるのではないか、と危惧している。

○中学校で行われている「セル服ウィーク」の取組について紹介してください。

- ・セル服ウィークの取組の結論から言うと、教師や生徒のアンケートから、制服は必要という結果はでている。セル服ウィークの取組は、自律性を高めること、自己決定をさせることをねらいに取り組んだ。総括や子どもたちのアンケートを見ると85～90%の生徒が制服は必要だと思っており、取組を通して制服の必要性が考えられたとの反応があった。
- ・宇治黄檗学園での勤務経験もあるが、小学校と中学校が同じ校舎内にあるため、これまで中学校に上がる時リセットできていたのができにくくなる。リセットする一つのきっかけになるのが制服を着ることである。小学生にとって中学校に上がる楽しみとして、部活動が一番あがるが、制服を着ることも上がっている
- ・制服をなくして私服とするには一定抵抗がある。ジェンダーレスなどの問題もあるので、選択制をとればいいのか。
- ・制服の中で自由さがあればいい。暑さ対策では、制服の素材とかを考えていくことが大事なのではないか
- ・「制服」ではなく、「標準服」と言っている地域もある。「制服」には必ず着なくてはいけないという印象があるが、「標準服」には必ず着ないといけないものではなくバリエーションで着こなすという印象がある。
- ・カーディガンなどは指定していない。制服に合うようなものを着てくださいとは言っている。ふさわしいか、ふさわしくないかの指導はしているものの、以前のように、違った服装をして

帰宅させるようなことはしない。私服にしなくても制服をとおして考えさせることも大事なのではないか。

- ・事が起きないようにするためにいろいろ回避策を施すよりも、起こったトラブルをどう解決する方が大事ではないか。
- ・今のままの制服を継続してもいいし、小中一貫校になるタイミングで変えてもいいのではないかとしたりもしている。規律とかを考えても制服は必要だと考える。
- ・いろいろな子どもがいる。例えば、シャツが選べられるならば、それぞれにどれを選ぶが選択させられる機会ができるのもいいのではないか。
- ・義務教育の期間が終わるとすぐに社会に出ていくこともある。他の国では中学校で終わりというところもあり、すぐに社会に出ていくとすれば服も自分で考える力は必要となっていく。
- ・私服にするデメリットとして、嫌な思いをしてしまう子がでることが心配である。
- ・制服でないといじめが起きるという客観的なデータはない。中学校から制服は必要なのかという納得できる理由がほしい。
- ・小中一貫校では小学生と中学生が一緒に生活する。小学生からすれば中学生の制服はあこがれの存在であると思うし、よりその思いが出てくるのではないか。

○幼稚園などでは年中や年長で制服を採用しているところがある。そうすると、年少のクラスの子どもは制服姿にあこがれを抱くことをみている。

- ・制服だけで憧れられるのはさみしい。
- ・小学校が制服とちがうのは子どもたちの成長の度合いを考慮したことによるものではないか。小1から毎年サイズアップし、費用面で影響を受ける。
- ・サイズが合わなくなった制服を合う子にあげるというおさがり文化を再構築してはどうか。環境問題にも通じるものがあり、環境学習も同時にできていけばいいのではないか。

○今日の部会を振り返ると、制服は一定あった方がいいのではないかと、との意見が多かったのではないかと。今後は、制服選定に向け、機能面、費用面、ジェンダーレスの視点などどのように考えるかが課題となってくると思う。

- ・保護者の方々にも、教師にも理解しやすく、イメージとして分かりやすくすることが必要である。「標準服」など名称も議論していく必要がある。
- ・私服の学校に通っている娘に聞いたところ、制服があってもよかったなあと言っている。その学校には昔は制服があり、あるとき生徒会などの要望で廃止された経過がある。制服については、これからもどこかの節目で考えさせるのが自主性を育てることになるのではないかと。

2 今後について

(1) 第3回部会（令和6年12月16日）

「制服について」継続協議

【協議の視点等】

- ・制服の採用学年について
- ・名称（「制服」・「標準服」）について
- ・制服選定にあたっての条件（機能面・費用面・ジェンダーレスの視点等）について 他

(2) 第4回部会（令和7年1月中旬開催を予定）

専門部会の取組状況について【校歌・校章部会】

1. 第1回部会（令和6年10月16日）の概要

資料の確認と意見交流

- (1) 作成根拠
- (2) 作成にあたっての検討項目
 - ア 作成時期
 - イ 校歌・校章の具体的な作成方法
 - ウ 校歌・校章の作成パターン
- (3) 他の小中一貫校の校歌・校章の事例

《意見交流での主な意見》

- ▶校歌や校章は当然あるものというイメージをしていた。
- ▶学校のシンボルとなるような校歌や校章があればいいと思う。
- ▶校歌も校章も2つあってはややこしいので1つでいいのでは。特に校歌が2つだと覚えるのが大変なのでは。
- ▶他事例の校章の由来を聞くだけでも感慨深いものがあつた。校歌や校章にメッセージが込められたものにしたい。
- ▶公募にしてもいいと思うが、この西小倉地域のことを知らない子が多い。校歌については子どもたちからこの地域にまつわるキーワードを出してもらってはどうか。
- ▶校歌は小学校と中学校で高音と低音のようにパートを分けて、小中学校で合唱のように歌うのもいいのでは。
- ▶校章は同じでも小学校と中学校で色を変えて、例えば中学生になると金色の校章になるといったようにしてもいいのでは。

2. 第2回部会（令和6年12月16日）の内容

(1) 前回のふり取り

(2) 校歌・校章について

- ・校種ごとに作成するか、学園として統一するか
- ・作成の目的〔校歌・校章〕
 - ▶部会として目的をまとめ、選考時の根拠とする。
- ・作成方法（公募、専門家への依頼等）〔校歌・校章〕
 - ▶公募をするか、最初から専門家に依頼するか
 - ▶公募するにしてもどの範囲にするか
 - ▶どの場で決定するか（決定機関）
 - ▶公募した後、どのように選ぶか

専門部会の取組状況について【こども見守り部会】

1 前回部会（令和6年11月18日）の概要

(1) 体制の確認

(2) 第1回協議の報告

<子どもの登下校時の見守りについて日頃感じていることの交流>

- 一貫校になった時の見守りがどうなっていくのか不安だ。
- 北小倉校区の通学路はどのルートだと安全に通学できるだろうか。
- 保護者の共働き、見守り隊の高齢化などの課題がある中、みんなで「見守りの工夫」について考えていきましょう。

(3) 昨年度の整備検討委員会通学路検討チームの活動状況・最終報告等、

および今年度の検討状況について

<昨年度の活動について、市橋委員(元通学路検討チーム長)より報告・説明>

- ①小学校ごとの通学路検討チームの活動および3チーム合同(全体チーム)の活動状況
- ②通学路検討チーム(全体チーム)でまとめ、整備検討委員会へ報告した通学路案の説明

<今年度の検討状況について>

○3 小学校の今年度(現時点)の検討状況について報告

(4) 協議事項「見守りの工夫」について

≪意見交流での主な意見≫

- 登下校の安全を守るのは親の責任だと言われたら冷たい気がする。地域の方の協力なしには難しいし、地域の団体の方々にもこの会に参加してほしい。
- 保護者やPTAに見守りを強制するのは無理じゃないか。任意で募集するしかないと思うが何かしらモチベーションになるものがあるといい。(例えばPTAの役免除等)
- 集合場所から学校まで付き添うような見守り方は負担も大きい上に子どもたちにとってもよくない。定点見守りやながら見守りでその間隔が短くなるようになればいいと思う。
- 見守り隊さんが解散されるということも含めて、見守り隊の現状を広く知らせて募集することが必要ではないか。
- 見守り隊とういことではないが、中学生が小学生の登校時刻に合わせて登校してくるということも考えてはどうか?(どちらにとっても成長につながる)
- 「子どもたちの安全を見守る」ということだけでなく、街づくりや自身の健康づくりを絡めた「ながら見守り」を呼びかけたりしてもよいのではないか?
- 「宇治市の見守り」は本来「防犯」から始まっているが、最近では「交通安全」の側面が強調され、責任問題などトラブルも見聞きする。
- これからの時代、今の北小倉や南小倉のような強固な見守り隊組織を作るのは困難。
- 新しくできる正門前の信号機のところに、消防署南側の交番の警官や警察OBに立ってもらうようお願いできないだろうか?
- きっちりした組織が無くてもみんなが気楽に参加できる緩やかな見守りをアプリなどを使ってできればいいのだが・・・。

- アプリを使うにしても、有償ボランティアを組織するにしてもそのお世話等をする何らかの組織・事務局のようなものは必要。
 - 地域協働活動でそういう活動を進めてもらえたら一番いい。
- ≪開校準備委員会に諮ること≫
- 現在、見守りをしてくださっている方々のご意見を聞きながら、見守り活動の様子や課題(人数減・高齢化等)について、広く保護者・地域の皆さんに知っていただくために「巨椋野」を活用することはどうか？
 - 見守り専門部会もしくは開校準備委員会として、見守り(特に正門前に新しくできる信号機付近)を交番(宇治署)へ要望したいと思うが、どうか？

(5) 閉会

次回会議も、引き続き「見守りの工夫」について考えましょう。

→ 会議翌日には、早速委員の方より「見守りアプリ」の使用例を情報提供された。

2 今後について

(1) 第3回部会(本日 令和6年12月16日)

開校準備委員会での意見を踏まえて「見守りの工夫」について継続協議

(2) 第4回部会(令和7年1月15日 19:00)

「見守りの工夫」について継続協議(予定)